

地域の“助け合い”を考える

現在、全国的に少子高齢化が進んでおり、久米島町においても、2025年には、団塊の世代の方々が後期高齢者（75才以上）に達し、後期高齢者の人口が増加する見込みです。

また、少子化の問題は、核家族化（島外への転出含む）や担い手不足と相まって、字のご近所間の関係を薄れさせ、昔からの“お互いさま”など、ご近所同士の“支え合い力”を弱める一因になっています。

下記の例は、いつかは私たちも同じ状況になるかもしれません。あなたはどのように考えますか。

例) ある字に、85才の一人暮らしのおばあちゃんが住んでいたとします。
このおばあちゃんは、3ヶ月前に転んで骨折し、最近、退院してきたばかりです。
子や孫は島外。親戚が近所に住んでいます。

- 近所に親戚がいるから大丈夫である？
- 下記のように、たくさんサービス使っているので安心？
- 子供が親を見るのは当然だから、島外へ連れて行ってもらう？



	月	火	水	木	金	土	日
例)	ヘルパー	デイサービス	訪問看護	サービスなし	ヘルパー	デイサービス	ヘルパー

注) 要介護認定度によって利用できる限度額（サービス量）が決められているため、上記のようなサービスを受けられるとは限りません。

ポイント

- ① 親戚も仕事など生活があり、頻繁に会いに行けない。
- ② ヘルパーさんや看護師さんが訪問できる時間は、限られた間です。
- ③ デイサービスは、日中のみ。朝と夜は独りぼっち。木曜日は、一日中ひとり。
- ④ おばあちゃんの希望は、「住み慣れた島から出たくない」。

このおばあちゃんの希望通りに「住み慣れた島（家）」で生活するには、多くの人の支えが必要ですが、私たちも、普段の生活を含め、病気やケガなどした時は、誰かの支えが必要です。

少子高齢化が深刻化してくる今から、地域の“支え合い”について話し合う必要があります。



令和3年3月 具志川公民館にて話し合い

字具志川地区では、地域の“支え合い（ユイマール）”を強化するため、字の住民が集まり、字の問題点や見守り活動について話し合いました。

“話し合いの場”は、3密にならないように注意し、消毒やマスク着用などの感染予防対策を行って実施しました。



福祉課 地域包括支援センター ☎985-7124 担当 平良